

本試験中止まで1尾だけ健在であつた。大・小を比較するに、大が比較的長時間滞在で順応性が強いと思われた。又小で1尾だけ54時間(最終濃度2336)も生存したのは他の淡水魚に見られない特性でテラピアの対酸度耐久力の強い事を証左するものであり、汽水養殖も可能なものと思われる。

濃度を230以上に強めなければ12時間以内80%の生存歩留があるから、餌飼料の不足や採捕困難に役立つものと思われるので次年度は此の1寸大テラピアを漁撈部に於て餌飼料試験を実施させ度い。3~5寸大テラピアは海水其の儘に收容して結果を得て延縄餌料に利用の可否を確めて見度い。

(3) 稚鰻の湖上調査

1. 趣 旨

従来沖繩に於ける稚鰻の湖上状況に就いては不明であつたが、58年度に始めて時期と量の概略を知り得たので今年度継続実施し養鰻事業の基礎資料とし度い。

2. 概 況

本調査は55年度より実施したが発見出来ず58年度に至つて始めて与那原町及佐敷村に於いて各1尾捕獲したのを手始めに西原村字兼久在兼久川を主体として、該川の下流の稲田灌漑用堰(巾3間落差2尺水深5寸~1尺)の堰下(セメント印、堆砂あり)で△手網(ビニール網製約1耗目)に依り掬取法を以つて採捕し下表の結果を得た。下表に依れば盛期は大体2月から4月の間であり、繁殖可能量の確保は出来るものと思われる。

月 日	稚 鰻				採取量 と 場 所	水 温		備 考
	重	長	高	巾		時間	水温	
1956 2.28	-	500	-	-	与那原 1尾 佐敷 1尾	14	17.5	
3.18	0.05	519	-	-	兼久500	2	20.2	川底、水苔の混濁性の物が多いものがあるが、多くは水苔の下に隠れ、大きさは2.0尾平均
3.29	0.2	814			" 200	15	23.5	川底の水苔下や堆砂の上層部に潜む。大きさは3尾平均
4.28	1.0	1320	681	556	" 45	16	27.5	前日より体が大きく堆砂の下部に多く潜む。大きさは3尾平均
5.1					" 11			体は大きいのが前日より稍小さく堆砂の底部に潜む。採捕量少し。
<p>昼間は潜居しているが、小さい時は水苔の下や堆砂の上部に潜入し大きくなるに従つて堆砂潜入度は深いようである。</p>								

3. 状 況

兼久川は川口より近距離に堰があり稚鯉の瀬上が阻止される位置があつて、堰下もセメント即平坦で採捕に便で且旗川に於ける瀬上量の概略が分ると思われるので、今年も此の川を主体に朝夕との関係も併せて調査を実施する計画であつたが、農運西原製糖工場の汚水が流入した為川水は汚濁し、臭気を発生し、川底は汚物沈着した為、計画の顛倒をきたした。此の為兼久川に変わる可き川を水研を中心とし、泡瀬以南知念村安座間まで調査したが適当な川がなく、佐敷村富祖崎の小川で実施する事にした。此の小川は東より西に走り馬天港に入る小川で水量少く且存及小川共泥分が多い。此の小川に於ける実施結果は下表の通り。

月 日	月令	天候	風向	気温 ℃	水温 ℃	採捕量 尾	稚 鯉				備 考
							長	高	口	重	
1957 2 4	2.5										陸宇網設置
5		曇 小雨	N	19	17.8	-					陥入なし
6		曇	N			5	53	2	2		白色透明
7		晴	NE	19	21.6	-					陥入なし
8		曇		18.7	18.5	1	56	2	2		白色透明
9		+				-					陥入なし
11		+	E	20.1	18.5	7	59	2	2		白色透明
12		+	NE	13.5	17.5	6	61	3	2		"
13		+	NW	16.5	13.5	2	56	2	1		"
14		+	NE	13.9	12.8	4	59	3	2		" 成鱈1尾陥入
15		晴	NE	19	13.9	3	59	1	1		"
16	○	+	E	23.9	24.5	-					陥入なし。成鱈1尾陥入
17		小雨	NE	22.3	17.2	6	58	3	2		白色透明
18		曇	NE	25.5	23.2	-					陥入なし
19		小雨	NE	25.1	20.1	3	59	3	2		白色透明
20		雨	S	26.8	23.7	-					陥入なし
21		晴	NE	23.2	25.2	-					+
23		曇	SE	25.2	19.6	-					+
26		+	SE	26.8	21.9	1	57	3	2		白色透明
29		晴	NE	18.2	13.2	-					陥入なし
30	○	+	S	23.0	17.9	2	60	3	2		白色透明尾帯黒色
2 8	3.5	+	N	24.2	24.6	-					陥入なし
8		+	N	24.8	20.3	-					+

4. 陥穿網の構造

兼久川に於ては堰下に△手網に依り採捕が容易であつたが此の小川では稚鱈の止る所がなく従つて手網に依る採捕が困難であるので、陥穿網を以つて採捕した。此の網は陥入口を矩形にし次第に袋部を絞る最端を輪にした。網地はビニール製1糸目位で骨組は針金8#線を使用した。陥入口には返し網を附し逸脱を防止し、尚此の網に袖網を附して溯上する魚類が袋部に誘導出来るようにし川下に向けて設置した。(別図参照)

5. 考 察

前回に比して今度の捕獲量の少いのは、兼久川は水量豊かで川口が直接外洋影響を受ける比率が多いのに反し、此の小川は水量少く且馬天港に入り外洋の影響を受ける事も少い為ではないかと思われる。今回は短期日間で而も天候の悪い場所ではあつたが、大体新月中頃より満月にかけて潮上が多い様に思われた。今後も此の調査を継続し、潮上の適期を確めると共に漁獲法の改善に依り量の多寡を知り度い。

推鏡照穿網構造図

